

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年5月7日

【評価実施概要】

事業所番号	1174800514
法人名	株式会社瀧石コーポレーション
事業所名	グループホーム楓
所在地	〒369-1802 埼玉県秩父市荒川上田野771番地 (電話) 0494-53-1081

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年4月24日

【情報提供票より】(平成19年12月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年9月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	31 人	常勤	11人, 非常勤 20人, 常勤換算 9.5人

(2) 建物概要

建物構造	木・鉄骨造り 2階建ての1階部分
------	---------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	25,000円 ~ 28,000円 + 実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (300,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり1,150円				

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名		
要介護3	4 名	要介護4	6 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	69 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	浅海医院、松本クリニック、吉田歯科クリニック
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

秩父鉄道・武州中川駅から歩いて10分くらいのところにある。国道に面して広い敷地内に有料老人ホームと併設されており、施設中庭からは山が見え、自然に恵まれた環境にある。当ホームは2ユニット、定員18名であるが、ユニットの間仕切りはなく、スタッフに見守られて過ごしている。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価で取り組みを期待された、職員の介護力向上を目指す為の研修計画については、年間で計画を立て、全職員の参加を促すように細かく配慮されたものが用意されている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員全員に自己評価及び外部評価の意義、内容は伝えている。今回の自己評価については、施設長含めユニット長、職員で意見を出し合って作成している。昨年の評価については、全職員で検討し改善に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 3ヶ月に1度の割合で開催している。会議では様々なことが話し合われ、記録も整理されており、出された意見はサービスの向上に活かしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 意見箱の設置はしていないが、家族からの意見や苦情は随時受け付けている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 幼稚園との相互訪問、小・中学校の行事への参加、総合学習の受け入れなど交流を図っている。また、地域の行事にも招待され、参加している。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	玄関正面に大きく掲示されている。全職員が、尊厳を大切に、地域でその人らしく暮らせるように支援をしている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念である、その人らしい生活を送ることができるように努めることや個別ケアなど、サービスに活かす取り組みをしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には加入していないが、地域の行事に参加するなど、交流は盛んに行われている。幼稚園との相互訪問、小学校のバザーや運動会への参加、中学校の文化祭への参加をしている。また、総合学習の受け入れも行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の評価で改善を促された研修については、年間の計画を立て、内容を吟味して全職員で取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月ごとに開催されている運営推進会議では、様々なことが話し合われ、施設のサービス向上に活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険を利用する施設として、介護保険の更新や変更手続きをするために市担当課へ行くことがあり、行政との連携を図る窓口にはなっている。		介護支援専門員として、手続き以外にも積極的に情報を提供して考え方や実態を共有し、サービスの質の向上に取り組んでいくことが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時や利用者に変化があった時の報告はしているが、定期的な報告は行われていない。	○	面会時や変化のあった時だけでなく、家族等の安心を確保するためにも、ホームの様子も含めた広報誌を定期的に発行するなどの取り組みを期待したい。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で家族の代表から意見を聞いたり、電話で受けることもあるが、意見箱などは設置していない。	○	家族等が、外部も含め、意見、苦情等を表せる機会をいろいろな場面で行うことが望まれる。また、苦情処理などの方法も含めて、リスクマネジメントへの取り組みを期待したい。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	地域から出勤している人が多く、退職者はほとんど無い状況にあり、異動も必要最小限に抑えている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の研修を含め、年間の研修計画を立て、研修を受講することで職員の育成やサービスの質の向上に努めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年10月に設立された、秩父郡市地域密着型サービス事業者連絡協議会に参加し、サービスの向上に向けた意見交換を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	すぐにサービスを開始せず、入所前、入所時などにアセスメントを行い、利用者の把握に努め、本人が納得してからサービスを利用していきようになっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームでできる手伝いを職員と一緒にしたり、共に過ごしながらか喜んだり楽しんだり思いを共感しながら一杯の取り組みをしている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族や関係者から情報を得るなどして、利用者一人ひとりの思いや希望、意向の把握に努め、できるだけ本人の意向にそえるよう取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	思いや意向の把握に努めながら、定期的にカンファレンスを開いて、介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、定期的な見直しを行っている。また、心身の状態の変化に応じた介護計画の見直しも行き、新たな計画の作成を行うようになっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助など状況に応じて支援しており、利用者や家族の希望に沿うように取り組んでいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医に受診、通院している。基本的には家族が付き添っているが、職員が付き添うこともあり、夜間協力病院にも付き添うなどの支援をしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の家族とは、入所時に話し合い、重度化した場合や医療行為が必要になった場合の受け入れは困難であることを説明している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人格の尊重や対応、記録の仕方にも注意を払っている。個人情報の利用の同意書も確認をし、説明をしたうえで署名・捺印してもらっている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	『急がない、あせらない』を心がけ、利用者のペースに合わせて生活できるように注意し配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常の食事に手をかけて、おいしいものを提供できるよう心がけ、一緒に食事をし、希望に応じて料理作りにも参加してもらっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の方法がリフト浴になっている利用者が増えており、日課の中に組み込まれているが、出きる限り個浴で対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除や洗濯物たたみなどの役割をもってもらったり、レクリエーションに参加してもらったりして、楽しみごとや気晴らしごとの支援に積極的に取り組んでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩など利用者の希望に沿って支援している。また、広い中庭でテーブルを出してお茶を飲むこともある。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関や室内等に鍵はかけておらず、自由に出入りしている。外出時は職員が付き添うようにしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年間3回の避難訓練を行っている。グループホームの経営会社が近くに数ヶ所あり、連絡が取れるようになっているが、近隣の方の協力は得られていない。		職員だけの誘導の限界を踏まえて、地域住民にも協力が得られるように働きかけていくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士と相談しながら献立を作成している。利用者の身体状態に合わせて食事形態を変え対応している。水分摂取量はこまめに記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、様々な手作りの作品が飾られており、生活感や季節感を大切にしており、職員と共に過ごす場になっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、家庭の延長として利用者が思い思いに過ごせるような環境に配慮して整えられている。		